

放流を通じて生命の大切さを勉強！ ～東通小学校1・2年生によるサケ稚魚放流～



「元気でね～！」



放流した稚魚のことが心配！

4月27日（火）、まだ肌寒いながらも好天に恵まれた老部川において、東通小学校1・2年生によるサケの稚魚放流が実施されました。

今回のサケ稚魚放流は、放流を通じて、子ども達にサケの生態について関心を持たせるとともに、やさしい心で動物や植物に接し、自然を愛する心を育むことを目的に実施されました。

放流の前には、むつ水産事務所の奈良課長より、サケの成長や放流の仕方について説明があり、子ども達はわずか1gの稚魚が4000gにまで成長して帰ってくることに驚きながらも、真剣にお話を聞いていました。

放流の際には、最初は水際に近づくことにとまどいながらも「大きくなって帰ってきてね！」「元気でね！」と稚魚に声をかけながら放流していました。子ども達は、海へ向って旅立っていく稚魚、川の流りに逆らってとどまる稚魚を、放流が終わってからもしばらくの間見守り、無事成長して帰ってくることを祈っていました。

竹林竹光氏（向野）に畜産功労者表彰 ～下北地域畜産振興協議会～



表彰式の様子



表彰された竹林さん

去る4月26日（月）、下北地域畜産振興協議会総会（会長：むつ市長 宮下順一郎氏）がプラザホテルむつで開催され、東通村向野地区の竹林竹光さんが、下北地域の畜産振興に対する功績が認められ、表彰されました。

竹林竹光さんは、日頃より肉用牛の改良と増殖に努め、地域農家との連携を図り、公共牧場を活用した低コスト経営に積極的に取り組まれています。また、昨年9月に行われた青森県肉用牛・農用馬共進会に、第2区黒毛和種若雌の2の部において、チャンピオン賞を受賞し、さらにチャンピオン賞の中でも特に優れたものに贈られる東北農政局長賞を受賞されています。今回、これらの功績を称え下北地域畜産振興協議会が表彰したものです。

今後とも、卓越した飼養管理技術を生かし、地域の畜産農家の模範としてご活躍されることを期待しています。